

調査団体名	愛知工業大学 都市環境学科 河川・環境研究室	団体代表者名	内田臣一(准教授)
活動地域	主に矢作川、瀬戸市河川	団体URL	<a href="http://aitech.ac.jp/~s-uchida/index-j.html">http://aitech.ac.jp/~s-uchida/index-j.html</a>
<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>琵琶湖博物館主任学芸員を経て、2000年4月より愛知工業大学に赴任。カワゲラ類水生昆虫の研究が専門であるが、広い視野で河川環境に関わる研究に従事している。愛知県以外にも研究範囲は広く活動しているが、主に矢作川中上流域での調査研究活動を矢作川研究所や矢作川漁協などと連携しながら、土砂移動や河床材料の変化なども見据えて展開しているほか、愛知工業大学付近を流れる小川でのホトケドジョウ調査(2001年～)なども研究室として対象とする。</p> <p>現場(河川)主体の調査と研究を旨とし、矢作川で発生している様々な事象に対して漁協等、様々な意見に耳を傾けながらも、あくまで研究者としての客観的な視点で、環境保全に向けて関わりたいとする。</p> <p>愛知県環境影響評価審査会委員を委嘱されているほか、海上の森運営協議会(愛知県農林水産部)にも参加している。</p>			
<p>&lt;連携している団体・専門家・自治体など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊田市矢作川研究所、矢作川漁協、矢作川水族館など矢作川に関する様々なセクターとの交流・連携</li> <li>○ 他の研究者とともに三河淡水生物ネットワークでの連携を始める(2008年～) 愛知学泉大学・矢部隆(カメ)、豊川市ぎょぎょランド・浅香智也(魚類)等</li> <li>○ 海上の森において運営協議会に参加するほか、「山口ホテルの会」(ホテル調査)への助言等</li> </ul>			
<p>&lt;今までに行った調査・研究&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 矢作川におけるカワヒバリガイの大量発生後の大量死(矢作川研究 2007)</li> <li>○ 東海豪雨後の矢作川の瀬における底生動物の現存量(矢作川研究 2003)</li> <li>○ 日本産水生昆虫一科・属・種への検索(東海大学出版会 2005)共著/カワゲラ目担当</li> <li>○ 河川水辺の国勢調査生物種目録(建設省河川環境課監修 1995)共著者多数/カワゲラ目担当</li> <li>○ 愛知万博会場予定地周辺におけるホトケドジョウの生息環境(ため池の自然、第35号 2002)</li> </ul> <p>その他多数</p>			
<p>&lt;現在直面している課題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 様々な情報がつながる仕組みが必要であるが、セクター、地域によりずいぶん差がある。</li> <li>2) 矢作川では、豊田市矢作川研究所が情報をつなぐコアセンターとなっているが、海上の森にはない。</li> <li>3) 同じ河川管理者でも、国と愛知県では情報量及びその発信性にずいぶん差を感じる。</li> <li>4) 研究者のネットワーク、特に河川のように総合的な場ではコーディネーターが必要である。</li> <li>5) 海上の森に関しては、きちんと情報を共有し、話し合う場が欲しい。</li> <li>6) あいち海上の森センターには研究者が必要である。</li> </ol>			
<p>&lt;今後どんな情報が必要か&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 愛知県の河川管理情報(水位、地形等)</li> <li>○ 愛知万博後の環境影響評価情報(愛知県環境影響評価審査会で提案したもの)</li> <li>○ 様々な環境調査データ、報告書の所在とリスト(どこに何があるのかわからない)</li> <li>○ 全般的に過去の情報(入手困難である)</li> </ul>			